

「Unit5 Universal Design」

～外国語を学ぶことを通して実現する、だれもが暮らしやすい社会の環境作りとはどんなものだろう～

本単元で育成する資質・能力

(学校) 主体性, コミュニケーション能力

- 1 日 時 令和5年 10月4日 (水)
- 2 学 年 第2学年1組 (男子18名 女子19名 合計37名)
- 3 場 所 新館3F 2年1組教室
- 4 単元について

○ 教材観

中学校学習指導要領解説 外国語編の「(4) 話すこと [発表]」の目標には「イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。」と示されている。これは、話し手として伝えたい順番や聞き手に分かりやすい展開や構成を考えて、それらをメモにするなどして整理し、英語で簡単なスピーチや発表ができることを目指すものである。

本単元では、ユニバーサルデザインが紹介されており、言語材料としては〔主語＋動詞＋(人)＋疑問詞＋to＋動詞の原形〕や〔主語＋be動詞＋形容詞＋that〕が取り扱われている。本文でユニバーサルデザインについて調べたことを整理し、発表している場面が設定されていることから、聞き手を意識したプレゼンテーション活動を行うのに最適な教材である。本文を通してユニバーサルデザインの考え方への理解を深め、あらゆる人の立場に立ち、すべての人にとって暮らしやすい社会とはどんなものかを考えさせる機会としたい。

○ 生徒観

本学級の生徒は、豊かな個性を認め合い、ペアやグループでの活動において共に学びあう雰囲気がある。本学年の生徒に令和5年9月13日に実施した英語の学習に関わるアンケートの結果から、次のような実態が明らかとなった。アンケートの項目は次の通りである。

項目	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと
英語を用いた活動の中で、苦手だと感じるものは次のうちどれですか。	21.4%	20.0%	20.0%	38.6%
英語を用いた活動の中で、得意、または楽しいと感じるものは次のうちどれですか	30.0%	22.9%	31.4%	15.7%

項目	あてはまる	やや	あまり	あてはまらない
英語の勉強は好きだ	28.6%	27.1%	28.6%	15.7%
英語の授業の内容はよく分かる	30.0%	38.6%	25.7%	5.7%
英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	64.3%	34.3%	1.4%	0.0%

英語の学習や授業の理解度について肯定的な回答をした生徒は6割から7割程度にとどまっている。しかしながら、9割を超える生徒が英語を学習することは将来役に立つと考えている。英語の授業にはいづらか難しさを感じる場面はあるが、社会に出たときに役立つ学習であるという意識は高い。

また、「話すこと」に関する活動は得意であり、楽しいと感じている生徒が比較的多い反面、自分の考えや気持ちを英語で書く活動については、苦手意識を持っている生徒の割合が多いことが分かった。その理由として「単語や文法を正確に書くのは難しいから。」「分からない単語やどうやって表現すればいいかわからない時があるから。」といった記述が見られた。このことから、自分の考えや気持ちを表現するための語彙や文法の定着が不十分であると考えられる。基本文のインプットや単語のドリル練習などを丁寧に行い、スモールステップで自己表現へとつなげる活動を工夫するなど、英語で表現することへの自信を持たせる指導が必要であることが分かった。

○ 指導観

指導には、単元のゴールとして、私たちが日々生活している本校の施設や校内の表示等について、ALT に読み方や使い方などを説明したり伝えたりするためのプレゼンテーション動画を作成する活動を設定している。導入では尾道市のHPにある「やさしい日本語コーナー」を紹介し、そのコーナーの意義や目的などについて考えさせる。また、本校で実際にALT や来校した人が困ったエピソード等を紹介し、何をどのようにすれば誰もが快適に過ごせる環境をつくることができるかをグループで考えさせたい。生徒が比較的楽しんで取り組める「話すこと」の活動を中心に据え、伝えたい順番や聞き手に分かりやすい展開や構成を整理する為の手立てとして「カット割り」のようなメモを作成する。聞き手であるALT の立場に立って、見方・考え方を働かせ、よりよく伝えるための工夫をさせたい。

また、本単元で学ぶ言語材料は、やや長い文で構成されている。意味のまとまりごとに区切って捉えさせるなど、板書やICT を活用して視覚的にわかりやすく示す工夫をしたい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

授業の展開の場面で（ミニホワイトボ	資質・能力	意欲・態度	知識・スキル		
		主体性 (自己を認識する力, 自分の人生を選択する力)	コミュニケーション能力 (表現する力)		
レベル1	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	

レベル2	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために、質問ができる。
レベル3	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。
レベル4	やりたいことを自ら見つけ、分析し、(大人のカも借りながら)自分たちで実行できる。	少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。		

6 単元目標

○だれもが使いやすいものや、暮らしやすい社会について考える。

○身近なもの・ことについて、使い方ややり方を説明したり、自分の考えを述べたりすることができる。

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<p>A 〈疑問詞＋to＋動詞の原形〉を用いた文や〈主語＋be動詞＋形容詞＋that〉の文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>B 〈疑問詞＋to＋動詞の原形〉を用いた文や〈主語＋be動詞＋形容詞＋that〉の文の理解をもとに、使い方ややり方、自分の確信や喜びの気持ちなどを伝え合う技能を身につけている。</p>	<p>C どのようにしたらよいかを誰かに説明するために、使い方ややり方について簡単な語句を用いて話している。</p>	<p>D ALT や相手の立場に立って考え、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。</p>

8 指導計画 (全8時間)

教科・領域の本質的な問い

- ・外国語を学ぶことを通して実現する、だれもが暮らしやすい社会の環境作りとはどんなものだろう

過程	時間	学習内容	重点	記録	評価規準	資質・能力 (評価方法)	
課題の設定	1	単元の目標を理解する。 「ALT にとって、もっと 過ごしやすい校内環境 づくり・街づくりをしよう。」 ★尾道市 HP「やさしい 日本語コーナー」の紹介 ★ザック先生が校内で 困ったエピソードの紹介				【主体性】 (写真集め活動・クローム ブック) ALT の立場に立って、読み にくい漢字や表現を見つ け、校内・家の近くなどの 表示や看板の写真を撮影 する	
	<p>単元を貫く問い (探究課題の萌芽)</p> <p>私たちの身近な場所 (学校) を ALT や地域の人たちなど、だれもが使いやすい施設にするにはどうすればよいだろう。</p>						
	情報収集	2	〈疑問詞+to+動詞の原形〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ★写真に撮影した表示や看板の読み方や書き方について知っているかをたずねる練習をする。	知	○	A 〈疑問詞+to+動詞の原形〉を用いた文の形・意味・用法を理解している。	【主体性】 (活動の観察・ ワークシート)
3		〈主語+be 動詞+形容詞+that〉の文の形・意味・用法を理解する。 ★写真に撮影した表示や看板の読み方や書き方を説明する練習をする。	知	○	A 〈主語+be 動詞+形容詞+that〉の文の形・意味・用法を理解している。	【コミュニケーション能力】 (行動の観察・ ワークシート)	
4		だれもが暮らしやすい社会について考えるために、相手の考えや気持ちなどを読み取ったり、確信や喜びの気持ちなどを伝えたりすることができる。 ★I'm sure that ~ I'm glad that ~ ★自分の考えや気持ちを整理するためのメモを完成させる。	知	○	A 〈疑問詞+to+動詞の原形〉を用いた文や〈主語+be 動詞+形容詞+that〉の文の理解をもとに、使い方ややり方、自分の確信や喜びの気持ちなどを伝え合う技能を身につけている。	【コミュニケーション能力】 (ワークシート)	

整理・分析	5・6	だれもが暮らしやすい社会について考えるために、ある人物の功績について書かれた文章の概要を捉えることができる。 ★自分の考えや気持ちを整理するためのメモを完成させる。	知	A 〈疑問詞＋to＋動詞の原形〉を用いた文や〈主語＋be動詞＋形容詞＋that〉の文の理解をもとに、使い方ややり方、自分の確信や喜びの気持ちなどを伝え合う技能を身につけている。	【主体性】 (活動の観察・ワークシート)
まとめ・創造・表現	7	校内表示や地域の看板などの内容について読み方・書き方や意味について説明をしたり、自分の確信や喜びの気持ちを伝えたりすることができる。 ★うまく言えなかった表現の確認 ★より良く伝える工夫（レベルアップさせるには…）	思	C どのようにしたらよいかを誰かに説明するために、使い方ややり方について簡単な語句を用いて話している。	【コミュニケーション能力】 (活動の観察・ワークシート)
実行・振り返り	8	校内表示や地域の看板などについて、読み方・書き方や意味について説明をしたり、自分の確信や喜びの気持ちを伝える内容の動画を撮影する。 ★より良く伝えるための工夫をする。	態	D ALT や相手の立場に立って考え、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。	【コミュニケーション能力】 (動画・振り返りシート)
<p>単元を貫く問いの終結</p> <p>私たちの身近な場所（学校）を ALT や地域の人たちなど、だれもが使いやすい施設にするには、相手の文化や立場について考えを巡らせ、相手意識をもって環境づくりをしていくことが大切である。</p>					

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- 〈疑問詞＋to＋動詞の原形〉を用いて、身近な表示や看板に書いてある文字の読み方や書き方について知っているかをたずねる質問を投げかけたり、その問いに答えたりすることができる。

(2) 本時の評価規準

- 〈疑問詞＋to＋動詞の原形〉を用いた文の形・意味・用法を理解している。 【知識・技能】

(3) 準備物

○電子黒板, Chrome book, ワークシート

(4) 学習の流れ (2時間目/全8時間)

過程	学習活動	指導上の留意事項 (○) 予想される生徒の反応 (・) 支援を要する生徒への手立て (◆)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】		
1 課題の把握 [15分]					
導入	<p>1. Key sentences (帯学習) 重要表現のインプットを行う</p> <p>2. Review (疑問詞) 疑問詞の復習をする</p> <table border="1"><tr><td>What Where When Which Why Who Whose How How many How much What</td></tr></table> <p>3. 文法解説 movie デジタル教科書の Key Sentence 解説 movie を見て概要をつかむ。</p> <table border="1"><tr><td>Task 私たちの身近な場所 (学校) を ALT や地域の人たちなど, だれもが使いやすい施設にするにはどうすればよいだろう。</td></tr></table>	What Where When Which Why Who Whose How How many How much What	Task 私たちの身近な場所 (学校) を ALT や地域の人たちなど, だれもが使いやすい施設にするにはどうすればよいだろう。	<p>◆発音の仕方など, 困った点はペアやグループで助け合うように促す</p> <p>○本時の言語活動と関連させる。</p> <p>◆黒板にカードを貼っておくことで, 後の言語活動に向けての視覚支援とする。</p> <p>◆新出表現のポイントを視覚的に確認する。</p>	<p>導入の工夫</p> <p>ICTの活用</p> <p>単元を貫く問い</p>
What Where When Which Why Who Whose How How many How much What					
Task 私たちの身近な場所 (学校) を ALT や地域の人たちなど, だれもが使いやすい施設にするにはどうすればよいだろう。					
2 課題の探究 [10分]					
展開 前半	<p>4. Small Talk and Quiz</p> <table border="1"><tr><td>[例] Do you know how to read this kanji? Do you know how to write it?</td></tr></table>	[例] Do you know how to read this kanji? Do you know how to write it?	<p>○Small Talk の中で, 繰り返し Key Sentence を発話することで, 表現方法やその意味を体験的に捉えさせる。</p>	<p>ICTの活用</p>	
[例] Do you know how to read this kanji? Do you know how to write it?					

Do you know where to go if you have a toothache?



尾道市 HP より

Do you think that Zach sensei knows how to read these kanji?



ザック先生に聞いて確かめるための質問スライドを作ろう！

◆小グループで協力して考えさせる。

○前時に確認した, 尾道市 HP の内容を想起させ, ユニバーサルデザインについて意識を向けさせる。

○ザック先生に直接確かめる必要があることを実感させ, 本時のねらいにつなげる。

Today's Goal

身近な看板や校内表示の読み方や書き方について知っているかをザック先生に尋ねるスライドを作ろう。

3 課題の解決 [15分]

展開後半

5. 基本表現の口頭練習

次のスライド作成のモデルをテレビ画面に提示しながら, 基本表現の口頭練習を全体で行う。

○基本表現を繰り返し発話し, 後のスライド作成に活かせるよう, 十分にインプットする。

6. スライド作成 (グループ)

ループリックを示した後, グループでスライドを作成する。

○全体で練習した質問の仕方や答え方などについて, グループでの活動においても活用するよう促す。

尺度 (評点・レベル)	記述語
A (理想的)	○身近な看板や校内表示の読み方や書き方について知っているかどうか, 誤りのない正しい英文を用いてスライドを作成することができる。 ○1問1答ではなく, 関連させた複数の質問を投げかけることができる。
B (合格)	○身近な看板や校内表示の読み方や書き方について知っているかどうか, 誤りが一部あるが, コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いてスライドを作成することができる。
C (乗り越えさせたい実態)	○身近な看板や校内表示の読み方や書き方について知っているかどうか, スライドを作成できない。

【例】

Do you know how to say



teachers'
office

in Japanese?

Answer : しょくいんしつ



teachers'
office

Do you know how to write



しょくいんしつ

in Kanji?

Answer : 職員室



teachers'
office

7. スライドの交流。
いくつかのグループのスライドを
発表させる。

◆ 小学校教材の Picture Dictionary に掲載されており、生徒たちが十分に慣れ親しんだ語彙や絵カードを用いて例を示す。

◆ 机間指導をして、困っている生徒の支援をする。

◆ 言いたかったのに表現方法が分からなかったことや、聞いたかったのに質問の仕方が分からなかったことについて、全体で共有し考える時間を取る。

○ フィードバック後、スライドの修正や改善を行う。

ICTの
活用

〈疑問詞+to+動詞の原形〉を用いた文の形・意味・用法を理解している。

[知識・技能]
(ワークシート
スライド)

【主体性】
(活動の観察・
ワークシート)

思考を
深め
学び
合い

4 次の探究に向けて[10分]		
まとめ	8. 振り返りを書く。	
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>予測される生徒の考え</p> <p>A評価 ○ザック先生は日本語を勉強しているけど、専門的な表現や漢字は難しいかもしれない。生活に欠かせないけれど、読みにくそうな病院やスーパーなどの表示をいろいろと見つけてザック先生に読み方や意味を説明したい。</p> <p>○「how to 動詞の原形」だけでなく、ほかの疑問詞を用いた表現で、ザック先生にもっとたくさんのことを尋ねたり説明したりできるようになりたい。</p> <p>B評価 ○身の回りの看板や表示の読み方や書き方について、ザック先生に尋ねるための言い方が分かった。</p> </div>	

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な看板や校内表示の読み方や書き方について知っているかどうか、誤りのない正しい英文を用いてスライドを作成することができる。 ○1問1答ではなく、関連させた複数の質問を投げかけることができる。
B（合格）	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な看板や校内表示の読み方や書き方について知っているかどうか、誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いてスライドを作成することができる。
C（乗り越えさせたい実態）	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な看板や校内表示の読み方や書き方について知っているかどうか、スライドを作成することができない。

(5) 板書計画

単元名 Unit5 Universal Design

ねらい 疑問詞 to 動詞の原形 を用いた文の意味や用法を理解する！

学習課題 身近な表示などの読み方や書き方を知っているかザック先生に尋ねるスライドを作ろう

Do you know how to read this kanji?

how to say ○○ in English?

疑問詞の復習カード

What 何

Where どこ

○○ △△

○○ △△